

平成25年度

せたな町教育委員会事務事業評価表

(平成24年度事業対象)

平成25年 6月

せたな町教育委員会

1 点検・評価の目的

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成20年4月1日施行）、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

せたな町教育委員会では、平成20年度から法改正の趣旨である効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者の知見を活用した教育委員会の点検・評価を実施しています。

2 点検・評価の項目

平成24年度で実施した教育委員会の施策・事業について、その目的、実施状況、成果、今後の課題について、教育委員会各主管課及び教育委員会による内部評価を行いました。

3 外部評価

点検・評価の実施にあたっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方（外部評価委員）からご意見をいただきました。

○外部評価委員

岩田 勇	瀬棚郵便局長	(瀬棚区本町)
濱口 幸登	元宮野郵便局長	(大成区宮野)
東間 千景子	ふあーみんぐCOWSUNS代表	(北檜山区松岡)
千葉 憲之	元北檜山中学校PTA会長	(北檜山区豊岡)

○評価指標

- (A) 十分達成されている。
- (B) おおむね達成されている。
- (C) やや不十分である。
- (D) 不十分である。

平成25年度
教育委員会事務事業に係る外部評価表
(平成24年度事業対象)

○実施日 平成25年6月11日(火)午後2時

○場 所 せたな町役場第1会議室

○外部評価委員

瀬棚区本町 岩田 勇

大成区宮野 濱口 幸登

北檜山区松岡 東間千景子

北檜山区豊岡 千葉 憲之

平成25年度せたな町教育委員会(学校教育)実施事業評価一覧表 (平成24年度事業対象)

学校教育 NO.1

事務事業 (評価項目)		実施状況	自己評価 (成果と課題)	外部評価委員意見	評価	
					H23	H24
1	教育委員の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 委員会の開催(10回) ○ 学校訪問(全13校、幼稚園) ○ 全道・管内研修会出席 	<p>委員会での案件審議、学校訪問での意見交換、研修会への参加など活動が円滑に行われた。</p>	自己評価どおりで良い	A	B
2	学校経営の円滑な推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定例校長会議における教育長示達 ○ 各月毎の学校経営の重点及び学校経営報告書の提出 ○ 教育課程の適正な管理及び新学習指導要領の実施 ○ 平成25年度の学校統合に向けた諸準備の推進(長磯小学校) ○ 平成24年度の閉校に向けた諸準備の推進(瀬棚商業高等学校) ○ 教職員の服務規律保持の指導 ○ 生涯学習指導主事の学校訪問(各期毎) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定例校長会議においては、教育長の示達を行う中で教育行政執行方針の具体化に努めた。 ○ 各学校から「毎月の学校経営の重点と経営報告書」、1・2学期末には「学校運営に係る自己点検表」、3学期には「教育執行方針達成度調査」の提出を求め、各校の実践事項や実情の把握に努めた。 ○ 小学校は、新学習指導要領の円滑な実施とその充実に、中学校も今年度から全面实施となった新学習指導要領の適正実施に努めた。 ○ 長磯小学校においては、学校統合に向け久遠小学校の児童・保護者・教職員とで修学旅行や授業交流、保護者説明会など各種交流が円滑に行われた。 ○ 学校閉校に向け、教育委員会と連携を取りながら閉校への事業が円滑に進められた。また、最後の卒業生となる11名も、進路が決まり、無事3月の卒業式を迎えることができた。 ○ 教職員の服務規律等の厳守については、定例校長会議・教頭会議の中で資料を用いて指導を行った。 ○ 指導主事の学校訪問は、各学期計(27回)、必要に応じて随時、教育局指導主事訪問時(20回)に実施し、学校経営・学習指導・生徒指導等に関わる指導・助言を行った。 	自己評価どおりで良い	B	A
3	学力の向上対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査及び町独自の標準学力調査を実施 ○ 「せたな町学力向上改善プラン」に基づく学 	<p>各学校においては、年度当初実施の標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教育委員会作成の「せたな町学力向上改善プラン」をもとに全学校で学校</p>	自己評価どおりで良い	B	B

		<p>習指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読書習慣の確立に向けた取り組みの推進 ○ 家庭と連携した家庭学習の習慣化については、教委配付の「家庭学習の手引き」、「家庭学習のすすめ」を参考に、各学校で取り組みが進んだ。 ○ 長期休業中や放課後の学習指導、チャレンジテスト問題などの取り組みについても、学校の実態に合わせて行われた。 ○ チャレンジテスト・トライやるウィークへの参加 ○ 久遠小学校に教員免許を持った学習支援員を配置し、複式学級の指導に当たさせた。 	<p>独自の「学力向上改善プラン」を作成し、学習指導等の改善に取り組んでいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査については、採点結果を分析し、日常の学習指導や各学校の「学力向上改善プラン」に生かしていた。 ○ 教委作成の「家庭学習の手引き」や「家庭学習のすすめ」により家庭と連携しての取り組みが進められた。また、各校でも、学校独自の手引を作成するなど工夫した取り組みが行われていた。 ○ 春、秋、春に行われた「チャレンジテスト・トライやるウィーク」には、全校で参加し、長期休業中の学習日の設定(平均6回)や放課後学習にと、各校工夫しながら学力向上に取り組んでいた。 ○ 人数が多い複式学級において、間接授業時の児童の疑問やつまづきに適切に対応することができ、学習への理解度を深めることができた。 			
4	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育推進教師の校務分掌への位置付けと役割の明確化 ○ 「道徳の時間」の改善・充実に向けての指導 ○ 「心のノート」の活用と指導の充実 ○ 参観日等における「道徳の時間」の授業公開 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育推進教師については、町内全校で校務分掌に位置付けられ、その役割についても共通理解が図られた。 ○ 「心のノート」を活用した「道徳の時間」の改善・充実については、町内全校において日常実践及び校内研修等で取り組みがされた。 ○ 参観日等における「道徳の時間」の授業公開については、年間計画に位置付けられ、全校で公開され、学校と家庭での連携した取り組みが進められた。 	自己評価どおりで良い	B	B
5	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育コーディネーターの校務分掌への位置付けと校内支援委員会の開催(全校) ○ せたな町特別支援教育連携協議会の開催(H24.6.22) (特別支援教育における関係機関との連携組織の確認。「個別の教育支援計画及び指導計画」の作成手順・様式・留意点等につ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対して、特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会や校内研修会を開催し、他の職員との共通理解を基に連携して日常生活の指導や学習支援が行われた。 ○ 特別支援教育連携協議会の組織の役割が明確になり、関係機関からの協力体制が整えられている。当該校においては、特別支援学級在籍者を中心に、長期的支援を見据えた「個別の教育支援計画」の作成、及び「個別の指導 	自己評価どおりで良い	B	A

		<p>いて確認と作成時における課題の交流。)</p> <p>○ 「特別支援教育支援員」の配置</p>	<p>計画」の作成が進められた。</p> <p>○ 連携協議会は、6月22日に開催され、各校の特別支援教育の推進状況や課題等が交流された。</p> <p>○ 教育委員会提供の「児童・生徒の学習・行動面に関する困難を調べるチェックリスト」の活用も進められ、「高機能自閉症・LD・ADHDなどの気づきに役立てられた。</p> <p>○ 特別支援教育支援員は、町内1園3校に計7名が配置され、特別な支援を要する児童生徒の生活・学習支援を行い、児童生徒のつまづきなどに随時対応することができた。</p> <p>(北檜山幼稚園2名、北檜山小学校2名、若松小学校1名、瀬棚中学校2名)</p>			
6	外国語指導助手の派遣	<p>○ 外国語指導助手の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校は週1回(瀬棚中・・・火曜日、北檜山中・・・水曜日、大成中・・・木曜日) ・ 小学校は原則として月1回(5・6年外国語活動の時間) 	<p>○ 昨年度8月から新しい外国語指導助手(ALT)を迎え、各中学校へ週1回派遣した。各校では、教科担任とALTが打ち合わせて活動の年間計画を立て、学習が進められた。</p> <p>○ 昨年度から5・6年の外国語活動が必修となったため、小学校には原則月1回派遣し、児童が楽しみながら英語語学力を養うための指導がなされた。また、希望する小学校については、ALTの空き時間を活用して追加派遣をし、コミュニケーション能力の素地を養う一助とした。</p>	自己評価どおりで良い	A	B
7	生徒指導の充実	<p>○ 各学校での全教職員による生徒指導体制の確立</p> <p>○ 道のスクールカウンセラー派遣(拠点校:北檜山中学校・週1回)</p> <p>○ スクールソーシャルワーカーの配置(拠点校:北檜山中学校・週3回)</p> <p>○ 生涯学習指導主事への相談(学校訪問及び随時)</p>	<p>○ 各学校においては、教委発行のいじめへの対応「教職員ガイドライン」をもとに、管理職を中心に組織的な対応が進められた。</p> <p>○ 教委では「学校不適応対策指導資料」(1~7号)を発行し、不登校対策、中1ギャップ、小1プロブレム、いじめ対策等の研修と指導を行った。</p> <p>○ いじめ対策については、全校で年間最低2回「いじめアンケート」と教育相談が実施され、未然防止・早期発見・早期対応の取り組みが行われた。</p>	自己評価どおりで良い	B	B

			<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度のいじめ認知件数は3件(小学校)あったが、いずれも深刻な内容ではなく、早期対応により解決された。 ○ 今年度も道のスクールカウンセラー派遣の継続に加え、昨年度からスクールソーシャルワーカーを北檜山中学校に配置し、学校と連携して不登校生徒の対応に当たった。 ○ 今年度の町内の不登校児童・生徒数は、11名(小学校4名、中学校7名)であった。 (不登校解消 小学生1名、解消気味 小学生2名、中学生1名) ○ 町教委では、毎月不登校児童生徒の状況について報告を求め、実態把握に努めるとともに、町指導主事が指導主事訪問時や必要に応じて各校を訪れ、いじめ・不登校についての情報収集や対応等について指導助言を行った。 			
8	教職員の資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校における校内研修の促進 (檜山教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問) ○ せたな町教育研究会の充実 (町教育研究大会の開催、今金町との2町授業交流会、サークル活動の活発化) ○ 町内各種教育団体への支援 (生徒指導連絡協議会、特別支援学級教育研究会、へき地複式教育研究会等) ○ 北海道教育研究所、檜山教育局主催の研修講座への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校では、年間計画に沿って校内研修を推進しており、各校研修部を中心に平均11.4回実施された。 ○ 教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問は、予定どおり進められ、各校の経営状況や児童生徒の実態把握、その後の指導・助言に大いに役立った。 ○ 町教育研究会及び町内各種教育団体の活動は、予定どおり活発に行われ、教職員の資質向上に寄与した。 ○ 各種研修事業については、ミニ道研、学力向上に関する研修会、生徒指導研など積極的な参加がみられた。 	自己評価どおりで良い	B	B

学校教育 NO.2

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価	
					H23	H24
9	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「栄養教諭を中核とした食育推進事業」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の要望に応じて学校栄養教諭を派遣しての「食に関する指導」 ・ 食生活実態把握のための「アンケート調査」（全校） ・ 食の安全性の認識を図る給食試食会 ・ 「食育講演会」の開催 ○ せたな町食育推進検討委員会（10月10日、12月3日試食会を含む、2月5日） ○ 児童生徒の学校給食センター見学 ○ 学校給食だよりの発行（毎月） ○ 安全安心な地元食材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校7校、中学校1校で栄養教諭による食育教育を中心とした「食の指導」を実施したことで、児童生徒の食に対する意識を高めることができた。 ○ 町内全校を対象とし「食に関するアンケート調査」を実施したことで、児童生徒の食生活の実態や課題が明らかになった。 ○ 食育講演会を実施したことで、食育の大切さについて意識啓発を図ることができた。 ○ せたな町食育推進検討委員会において、児童生徒の食に関する意識を高める方策について充実した話し合いを進めることができた。 ○ P T Aや地域と連携した地元食材を使った調理実習も開催されるなど、各校で工夫された食育教育が推進されていた。 	自己評価どおりで良い	A	A
10	幼児教育の充実	平成24年度入園児童数 45名 (3歳児 10人 4歳児 16人 5歳児 19人)	園生活を通して、友だちと関わりながら基本的な生活習慣や道徳性を身につけるなど、就学前幼児教育がなされている。また、特別支援を必要とする園児には、保護者の同意を得ながら特別教育支援員2名を配置し、個に応じた支援を行った。	自己評価どおりで良い	A	A
11	高校教育	平成24年度生徒数 3年生 11名 特色ある教育活動の実践 (1) 瀬・ショップ2012（販売実習） (2) 学習成果発表会 (3) ボランティア等社会貢献活動（交通安全キャンペーン・高齢者宅訪問など） (4) 国際理解教育（ハンフォード西校との交流）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度で閉校となるが、3年生11名の少人数の中で「情報教育」「キャリア教育」「国際理解教育」を三本柱とした実践的な教育活動が展開されていた。 ○ また、特色ある学校行事（実習販売・海洋スポーツ・ボランティア活動など）を通して、自主性や社会性を身に付ける教育活動が行われていた。 ○ 最後の卒業生である11名も、全員進路が決定し、無事卒業することができた。 	自己評価どおりで良い	A	A

1 2	学校検診事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒内科検診 667名実施 ○ 児童生徒尿検査 674名実施 ○ 児童寄生虫卵検査 239名実施 ○ 児童生徒歯科検診 663名実施 ○ 児童生徒心臓（心電図）検診 134名実施 ○ 児童生徒耳鼻咽喉科検診 357名実施 ○ 中体連駅伝選手心臓検診 45名実施 ○ 児童生徒眼科検診 629名実施 	<p>学校と関係機関との連携の下で、学校保健法に定められている各種検診を計画的に実施し、児童生徒の健康管理に努めた。</p>	自己評価どおりで良い	A	A
1 3	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営方針の説明、学校だよりの配付 ○ 学校評議員の委嘱 ○ 学校関係者評価委員（外部評価委員）による学校評価 ○ 学校支援地域ボランティアの人材を外部講師として招聘 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各校では、年度当初の参観日等で経営方針の説明を行うとともに、学校だより等で日常の様子を保護者や地域に知らせた。 ○ 学校評議員・学校関係者評価委員の視点から、学校経営等について意見をいただき、地域の意向を把握した学校運営が行われた。 ○ 学校支援地域ボランティアについても、各校の計画に沿って進められていた。 ○ 学校評価については、自己評価（学校評価、児童・生徒評価、保護者評価等）・学校関係者評価が実施され、それらの結果については、PTAや参観日、学校だより等を用いて公表された。 	自己評価どおりで良い	A	A
1 4	子どもの安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校での「危機管理マニュアル」及び「火災や地震時の防災訓練」の点検・見直し、及び学校の立地条件に応じた火災・地震・津波・洪水などの実践的な対処や訓練が実施されていた。 ○ 交通安全教室・防犯教室・薬物乱用防止教室等の実施。 ○ 各区毎に地域の関係機関・団体との情報交換を行い、町内安全パトロールの実施。 （子どもの安全を守る連絡協議会～夏休み前に開催） （生徒指導連絡協議会～各学校の決まり確認、 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教委発行の「学校危機管理の分類表」及び「危機管理資料（各校の標高・海岸からの距離）」をもとに、各学校における「危機管理マニュアル」の点検と見直しが行われ、災害時における立地条件に即した対処・訓練が行われた。 ○ 各学校では、防犯訓練・防犯教室・薬物乱用防止教室（中・高）など実際の場面に即した訓練を実施することで、危機管理下における児童生徒の安全確保を図った。 ○ 各区内の関係機関・団体と連携しながら、登下校時や帰宅後の安全指導及び祭典時の巡回指導などに努めた。 ○ 町建設水道課や関係機関と連携し、町内各小学校の通学路の点検をし、危険個所にカーブミラーを設置するな 	自己評価どおりで良い	B	B

		子どもの様子等の情報交流、研修会の開催) ○ 町内各小学校の通学路の安全点検	ど、児童の登下校の安全を図った。			
15	児童生徒への就学援助	経済的援助を必要とする世帯への援助 ○ 要保護世帯 小学生 6世帯 7名 中学生 6世帯 8名 計 12世帯 15名 ○ 準要保護世帯 小学生 36世帯 47名 中学生 23世帯 25名 計 59世帯 72名	○ 学校と連携のもとで、経済的援助を必要とする世帯に対して学用品費・修学旅行費等への支援を行った。 ○ 就学援助の項目が平成24年度から対象項目が増えたが、本町も直ぐに補正予算で対応し、保護者に負担がかからないよう配慮した。	自己評価どおりで良い	A	A

学校教育 NO.3

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価	
					H23	H24
16	学校教育環境の整備充実	○ 瀬棚小学校正面玄関入口改修 ○ 久遠小学校体育館トイレ一部洋式改修 ○ 大成中学校体育館暗幕購入	○ 建築後25年～30年を経過する学校が多く老朽化が進んでいるが、児童生徒が安全安心な学校生活を送るため、必要箇所の修繕については随時実施し適正な維持管理に努めた。 ○ 瀬棚中学校の耐震化計画については、町と確認し次年度に予算化することで決まった。	自己評価どおりで良い	B	B

(評価指標) A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

平成25年度せたな町社会教育行政推進事業実施評価一覧表（平成24年度事業対象）

■生涯学習を促進する社会教育活動（1）

評価項目（事務事業）	実施状況			自己評価	意見	評価	
	北檜山区	大成区	瀬棚区			H23	H24
1 生涯学習講座 （青少年健全育成）	○性に関する講話会 （9/10北檜山中学校）		○性教育講演会 （11/7瀬棚中学校）	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の発達段階に合わせた、生活課題解決のための学習機会となり、継続して取り組まれている。 ・学校からの要望に応じたプログラム実施が主となり進められるため、生徒の実態が把握できる取り組みとなっている。 ・町内中学校及び高等学校を対象とした取り組みであるが、小学校からの要望がある場合は予算の範囲内で受け付けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい 	A	B
2 生涯学習講座 （地域課題解決）	◎ブックスタート研修会 （3/21ふれあいプラザ）		◎環境教育講座 （6/15瀬棚ふれあいセンター）	<ul style="list-style-type: none"> ・道内の先進地である、岩見沢市の取組事例を参考に「家庭・学校・地域・図書館等」が一体となって取り組める体制づくりや新しい手法（読書法：アニメーション）を学ぶことができた。（ブック） ・他町、他管内で取り組まれている参考事例を活用していくための体制づくりが必要。（ブック） ・読書活動を推進するためには、各関係機関の理解と連携協力体制が必要。（ブック） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい 	B	B
3 学校開放講座 （高等学校、小中学校）		◎小学生水泳教室 （7/31、8/1大成中学校）	◎パソコン活用教室 （10/18-10/30瀬棚商業高校）	<ul style="list-style-type: none"> ・実施要望のある学校が限定されてきており、町内全体での広がりが見られない。 ・本講座の趣旨目的や具体的な取り組みの理解を得るため、各学校へ出向き、直接的にPRしていく必要がある。 ・学校の形態や職員体制、教員の意識などにより取り組み状況に差異がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい 	B	B
4 ふるさと学習講座		○春の自然観察会 （5/12貝取間溪谷） ◎冬の野鳥観察会 （2/23大成区内一円）		<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと再発見のための体験活動プログラムとして継続的に実施されている。 ・子どもから大人まで、自然体験に興味のある住民が多いことが把握できる。 ・野草や野鳥など、町内各区に多く存在する教育資源を活用した継続的なプログラムを計画し、シリーズ化を視野に入れた取り組みを進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい 	B	B
5 学びあいネットワーク交流事業 （地域学習講座）	○冬の健康づくり講座 （2/18丹羽家政学級） ○料理教室 （3/5北檜山地区） ○絵手紙教室 （3/8丹羽家政学級） ○マンガ「書」講座 （3/12丹羽家政学級） ◎刻字講座 （3/30～31若松地区）	○介護保険制度を学ぶ （2/25宮野地区）		<ul style="list-style-type: none"> ・町内外や地域内での人材発掘や人材活用を進めることができている。 ・自発的な学習相談や要望が多く、学習意欲の高まりを感じられる地域もあるが、町内全体では取り組みに偏りがある。 ・事業予算は十分に計上しているが、地域住民の理解が得られておらず、事業PRが不足している感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・町民周知を徹底し事業の充実の努められたい 	C	B
6 学校支援事業	○37プログラム （小学校3校、中学校1校）	○26プログラム （小学校2校、中学校1校）	○34プログラム （小学校3校、中学校3校）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が一体となった動きとなってきている。 ・学校支援ボランティアと学校が、直接連絡調整できる体制が整ってきており、学習相談体制が充実してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・学校との連携を密にし効果的な事業の推進に努められたい 	A	A

平成25年度せたな町社会教育行政推進事業実施評価一覧表（平成24年度事業対象）

■生涯学習を促進する社会教育活動（2）

評価項目（事務事業）	実施状況			自己評価	意見	評価	
	北檜山区	大成区	瀬棚区			H23	H24
7 地域学習の促進	NO. 5 再掲						
8 PTA・女性団体支援	◎町PTA連合会補助 ◎町女性団体連絡協議会補助 ○北檜山区女性団体支援	○大成区女性団体支援	○瀬棚区女性団体支援	<ul style="list-style-type: none"> ・団体会員相互の研修活動等は計画的に進められている。 ・学習機会の提供や連携事業の実践など、自発的な活動への支援ができています。 ・団体運営を把握しながら、現状に応じた組織の見直しなどを視野に入れていく必要がある。（支部統合制から団体の完全統合や1本化への移行など：女性団体） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい 	B	B
9 高齢者大学	◎町高齢者大学 （合同事業／入学式・レク交流、 修学旅行・修了式） ○北檜山いきがい学園支援	○大成くおん大学支援	○瀬棚寿大学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各区それぞれの特色を活かした活動が計画的に進められている。 ・全町事業も年間4プログラム実施され、区を越えた学生相互の交流が図られている。 ・将来的な各区大学の動きや取り組み、体制づくり等を検討していく必要がある。（大学の統合・学生の減少や高齢化） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい 	A	A
10 社会教育施設の整備充実	○青少年女性研修所 ○青少年センター ○情報センター ○北檜山郷土資料室	○大成図書館 ○大成郷土館 ○大成青少年会館	○瀬棚図書館 ○瀬棚郷土館 ○瀬棚児童会館	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画・月間計画により各施設の有効活用が図られ、利用要望に適切に対応している。 ・施設の老朽化により、大規模な改修が必要な施設も多い。 ・計画的な改修（修繕）や必要に応じて施設の統廃合を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・今後も計画的な整備に努められたい 	B	B
11 図書館事業の充実	○情報センター（H24実績） ・蔵書数 23,845冊 ・利用者数 4,005人 ◎図書館システム本格稼働 ◎ブックスタート事業（継続実施中）	○大成図書館（H24実績） ・蔵書数 30,280冊 ・利用者数 4,635人 ◎図書館システム本格稼働 ◎ブックスタート事業（継続実施中）	○瀬棚図書館（H24実績） ・蔵書数 9,594冊 ・利用者数 3,806人 ◎図書館システム本格稼働 ◎ブックスタート事業（継続実施中）	<ul style="list-style-type: none"> ・各図書館施設での計画的な事業や催しが進められており、定期的な情報発信もされている。 ・自町の取り組みだけでなく、近隣町（今金町）との連携した事業実践が行われ、効果的なものとなってきている。 ・図書館システムの導入及び稼働により、担当者の負担も軽減され、来館者への円滑なサービスが提供されている。 ・各図書館施設が充実した取り組みとなるよう、町内（3区）図書館施設の連携した体制づくりや事業実施が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価どおりで良い ・町民の理解を得るために、住民周知やPR等を徹底し事業の充実に努められたい 	B	B

平成25年度せたな町社会教育行政推進事業実施評価一覧表（平成24年度事業対象）

■青少年の健全育成

評価項目（事務事業）	実施状況			自己評価	意見	評価	
	北檜山区	大成区	瀬棚区			H23	H24
12 家庭教育学級 子育て学級				<ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭内での子どもの様子（状況把握）などを知るための親の学習機会（情報交流）として設定する必要がある。 学校単位ではなく、区単位での取り組みが進めやすいのか、関係機関と協議する必要がある。（*一昨年前に実施した、キャラバン隊のようなスタイル） 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価どおりで良い 学校へのプログラムを提供しながら今後も継続して進められたい 	C	D
13 リーダー養成	<ul style="list-style-type: none"> ◎児童生徒の宿泊研修事業「フロンティア・アドベンチャー」（7/28-30 札幌方面） ◎北海道グリエリーターズ派遣（7/30-8/1 札幌）2名派遣（北檜山中3年生） 			<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の促進やジュニアリーダーの養成など、目的が達成されている。 瀬棚商業高等学校の閉校により、サブリーダーの担い手を全面的に檜山北高校へ依頼することとなるが、リーダーの選出や連携した体制づくりについて、進めていく必要がある。（フロンティア） 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価どおりで良い 今後も継続して進められたい 	A	A
14 休日活動の促進 放課後対策事業		<ul style="list-style-type: none"> ◎社会教育団体交通安全街頭啓発（7/7 平兵海岸道の駅付近） 	<ul style="list-style-type: none"> ○親子釣り大会（5/20 懸かり島） ○プールでOPヨット体験会（6/16 B&Gプール） ○マリンスポーツ体験（7/7 B&G艇庫） ○カヌー下り体験（9/2 B&G艇庫） ○親子凧揚げ大会（11/25 漁火公園） 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の体験活動の促進を図り、様々な分野での実践活動が展開された。 全町児童を対象とする事業において、実施区以外の児童の参加が少ないため、各事業を実施する際の周知に工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価どおりで良い 今後も継続して進められたい 	B	B
15 子ども育成会等青少年育成団体への支援	<ul style="list-style-type: none"> ◎町子ども育成会連絡協議会補助 	<ul style="list-style-type: none"> ○親子ふれあい推進事業「ミニ大運動会」（3/3 大成中学校体育館） 		<ul style="list-style-type: none"> 親子ふれあい推進事業においては、継続実施されており、好評な取り組みとして定着してきている。（ミニ） 各区子ども会の活動が中心となり、せたな町子連としての交流事業がカルタ大会のみとなっている。（子連） 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価どおりで良い 今後も継続して進められたい 	B	B

平成25年度せたな町社会教育行政推進事業実施評価一覧表（平成24年度事業対象）

■芸術・文化の振興

評価項目（事務事業）		実施状況			自己評価	意見	評価	
		北檜山区	大成区	瀬棚区			H23	H24
16	趣味教養講座	◎篆刻・刻字講座 (4/7~8 ふれあいプラザ) ◎篆刻講座(第2回目) (7/14 ふれあいプラザ) ◎刻字講座(第2回目) (11/25 ふれあいプラザ) ◎子ども英会話教室 (4/25~3/13 町民体育館) ○初心者英会話教室 (5/10~3/28 ふれあいプラザ)	○新春書初め大会 (1/7 大成中学校体育館)		・一般成人の新たな趣味拡充に向けたプログラムを実施することができた。(篆刻・刻字講座) ・町内外で実施されている、様々なプログラムを取り入れながら、広域的な学習活動を提供していきたい。 ・子どもから大人まで、大変好評で満足度の高いプログラムであることから、今後も継続して実施していきたい。(英会話教室)	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	B	B
17	文化団体	◎町文化協会補助			・各区ごとに計画的に実施されており、文化活動者の成果を発表する機会として継続した取り組みとなっている。 ・芸能発表の部では、各区それぞれで出演団体や演目などのジャンルが偏りがちな部分もあることから、将来的に実施方法を検討していく必要がある。 (*実施状況を把握しながら、芸能発表会を統一するなどの見直しも必要)	・自己評価どおりで良い ・今後も更なる充実に期待する	A	A
	町民文化祭実行委員会	○作品展示 (11/3-4 ふれあいプラザ) ○芸能発表会 (11/18 ふれあいプラザ)	○作品展示 (11/3-5 大成町民センター) ○芸能発表会 (11/10 大成町民センター)	○作品展示 (11/3-5 海洋センター体育館) ○芸能発表会 (11/11 瀬棚町民センター)				
18	芸術鑑賞機会の提供	◎文化講演会 「渡部陽一講演会」 (8/27 ふれあいプラザ) ◎北海道巡回小劇場 (児童劇：劇団風の子) 「12の月の物語」 (9/5 町民体育館) 町内全小学校児童対象		◎北海道歌旅座公演 (7/1 瀬棚町民センター)	・各事業の参加人員から把握できるが、芸術鑑賞事業は住民から多くのニーズがある。 ・住民が身近に接する芸術鑑賞機会が非常に少ないことから、芸術文化活動の促進を目的に、継続した事業開催や予算獲得に向けて進めていく必要がある。	・自己評価どおりで良い ・今後も鑑賞機会の提供に努められたい	B	A
19	文化財の保護・活用	○町指定文化財 ・青い目の人形 ・阿波浄瑠璃人形 ・兜(明珍信家作) ※青い目の人形貸出 (七飯町 10/31-11/7)	○町指定文化財 ・久遠神楽	○町指定文化財 ・荻野和子遺品資料 ・南川遺跡出土遺物	・町で保有している、有形無形文化財の保護に今後も継続して努めていきたい。 ・ふるさと学習を進める目的から、文化財を知るための学習機会提供やPRなど検討していきたい。	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	B	B
20	郷土芸能団体支援	◎町郷土芸能団体連絡協議会補助 ○二俣風神太鼓保存会 ○浮島電神太鼓保存会	○久遠神楽保存会 ○北海久遠太鼓保存会	○松前神楽瀬棚保存会 ○三杉太鼓保存会(休会)	・各団体で積極的な各種イベント等への参加があり、団体の自主活動(発表)が進められている。 ・将来に向けた、新規会員の発掘や後継者育成等が進められていない。	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	B	B

平成25年度せたな町社会教育行政推進事業実施評価一覧表（平成24年度事業対象）

■スポーツの振興（1）

評価項目（事務事業）	実施状況			自己評価	意見	評価	
	北檜山区	大成区	瀬棚区			H23	H24
21 健康づくり促進事業 健康づくり講座	◎健康づくり講座 「軽い運動とミニゲーム：高齢者対象」 (9/26 町民体育館)	◎町民歩こう会 (9/8 大成会場)	◎町民歩こう会 (10/24 瀬棚会場)	・秋の健康づくり促進に向けた取り組みとして継続的に実施されており、住民のニーズも高いことが把握できることから、今後も引き続き実施していきたい。 ・北檜山区、瀬棚区での開催においては、例年参加者が少なく、散策コースが定まっていない。 ・事業集約や経費節減など、効果的な事業実施とするため、1会場での開催を検討していきたい。 (*継続実施されている大成会場をメインに開催)	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	B	B
22 スポーツ専門講座			◎スポーツ専門講座 「トレーニング：一般成人対象」 (12/15 B&G体育館)	・スポーツ活動者の目的（体力・筋力向上）に応じたプログラムを設定することができ、活動の一助とすることができた。 ・専門的なメニューを取り入れながら、年間数回での段階的なプログラムをしていきたい。	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	A	B
23 町民スポーツ大会 区民スポーツ大会	◎町民リハビリ大会 (9/2 スポーツ公園) ◎子どもチャレンジ祭り (10/8 町民体育館) ◎町民サッカー大会 (2/10 丹羽球場)	◎町民駅伝競走大会 (10/6 大成区内コース) ◎大成区サッカー大会 (1/26 大成球場)	◎町内対抗バレーボール大会 (9/26-27 B&G体育館)	・年間での予定事業が計画通りに進められており、スポーツ活動の促進が図られている。 ・多くの住民が気軽に参加できるプログラム（種目）が実施されている。 ・これまでの実施状況を検証しながら事業の見直しや新たな取り組みを視野に入れて進めていきたい。	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	A	A
24 各種スポーツ教室	◎少年少女水泳教室 (7/30-8/3 町民プール) ◎初心者サッカー教室 (1/14-16 丹羽球場)	◎サッカー教室 (1/15~24 大成球場)	◎子ども水泳教室 (7/25, 27, 30 B&Gプール) ◎複式小学校リハビリスポーツ体験 (8/24 B&G 艇庫) ◎移動サッカー教室 (1/26 ヒノカキ球場)	・子ども達に好評なプログラムを提供できており、各種大会等での成果を發揮できている。 ・新たな実施プログラムの提供については、子ども達のニーズ等を把握しながら設定していきたい。 ・各区での取り組みがメインとなっているが、将来的には総合的な実施プログラムの1本化を検討していきたい。	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	B	A
25 ニュースポーツ体験教室	◎スポーツ体験教室 (6/18, 19, 21 町民体育館) (10/22, 25, 26 町民体育館) 「ハカマ、エホク」		◎プールでOPヨット体験会 (6/16 B&Gプール) ◎スポーツ体験教室 「フライングディスク、ボートボール等」 (6/28, 29 B&G体育館) ◎カー体験 (7/7, 8 B&G 艇庫) ◎アークゲーム教室 (7/23 B&Gプール) ◎スポーツ体験教室 「スポーツチャッパ、エホク等」 (11/27, 28, 29 B&G体育館)	・誰もが取り組みやすく、気軽にできる種目を実施できたことにより、普及促進につなげることができた。 ・全町的なニュースポーツの普及を目指しながら、継続して進めていきたい。	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	B	B
26 スポーツ団体支援	◎町体育協会補助 ◎町スポーツ少年団補助 ◎キャンプ推進の会補助 ・9 団体受入 ◎スポーツフェスタ実行委員会補助 ・軟式野球競技会場支援 (9/8 真駒内球場他)		◎スポーツ合宿実行委員会補助 ・2 団体受入	・各団体それぞれで計画的な活動が行われている。 ・団体運営に対する活動補助支援が継続的に進められている。 ・各団体の運営や組織体制を把握しながら、将来的に状況に応じた組織の見直しを検討する。	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	B	B

平成25年度せたな町社会教育行政推進事業実施評価一覧表（平成24年度事業対象）

■スポーツの振興（2）

評価項目（事務事業）	実施状況			自己評価	意見	評価	
	北檜山区	大成区	瀬棚区			H23	H24
27 学校施設開放事業	○学校施設開放 ・5団体 ・北檜山中、北檜山小	○学校施設開放 ・9団体 ・久遠小、長磯小、大成中	○学校施設開放 ・2団体 ・瀬棚小	・効果的な開放事業となっており、住民の活動拠点となっている。 ・学校施設であるため、利用の制限があるが、相互の理解を深めることが必要。	・自己評価どおりで良い ・今後も更なる充実に期待する	B	B
28 海洋リーダー派遣事業	◎B&G 海洋体験センター (7/28~8/2 沖縄県) 小学生3名派遣 ◎B&G 体験クルーズ (3/24~30 小笠原諸島) 中学生2名派遣		◎北海道大会「水上の部：艇」 (8/5 新篠津村)	・計画通り進んでいる。 ・主催者のB&G財団の事業見直しにより、H24年度をもって終了となった。 (体験セミナー・体験クルーズ)	・自己評価どおりで良い ・今後の取り組みを視野に入れながら体制整備に努められたい	B	B
29 スポーツ施設の整備充実	○町民体育館 (電気設備修繕、消火設備設置、非常警報設備改修) ○町民プール (塗装補修、換気扇修理、照明配管修理) ○真駒内球場 (トイレ改修、高圧気中開閉器改修) ○北檜山スポーツ公園(グラウンド)整備 ○丹羽球場 (トイレ塗装補修、管理棟屋根修理) ○体育施設芝生管理	○大成農村広場 ○大成エスコート ○大成町民プール (トイレ水洗化) ○大成球場 (第1リフトワイヤ交換) ○大成中学校体育館	○海洋センター体育館 (外壁・屋根改修) ○海洋センタープール (トイレ水洗化) ○海洋センター艇庫 ○瀬棚スポーツ広場 ○瀬棚エスコート ○三杉球場 ○夕陽丘パークゴルフ場	・必要に応じ改修を進めている。 ・各施設は、住民の活動拠点として効果的に利用されているが大型改修の必要な施設が多くある。 ※新年度改修工事予定 ①町民体育館消火設備設置工事 ②町民体育館玄関タイル改修工事 ③町民体育館車庫設置工事 ④真駒内球場暗渠等改修工事 ⑤北檜山スポーツ公園野球場グラウンド改修工事 ⑥北檜山スポーツ公園ゲートボール場屋根等改修工事 ⑦大成プール濾過器濾材交換工事 ⑧夕陽が丘パークゴルフ場水飲み場設置工事	・自己評価どおりで良い ・今後も計画的な整備に努められたい	B	B

■国際交流の充実

評価項目（事務事業）	実施状況			自己評価	意見	評価	
	北檜山区	大成区	瀬棚区			H23	H24
30 国際交流のつどい	◎国際交流夏のつどい ・8/24~9/1 ・留学生受入2人(ホスト2世帯) ・事業 対面式 歓迎パーティ 町内見学 高齢者大学交流 学校交流(3校) 各種体験講座 (茶道・陶芸・マンスポーツ) 家庭交流			・HIFの事業全体において、ホストファミリーや参加留学生が年々減少しており、今年度も2名の留学生であったが、少ない人数に相応するプログラムを実施でき、留学生への気配りや移動等も十分に対応できた。 ・ホストファミリーや来町する留学生数が少なければ事業規模が限定されてしまうので、内容を充実させていくためのプログラムを検討していく必要がある。	・自己評価どおりで良い ・今後も継続して進められたい	B	B
31 姉妹都市交流	◎姉妹都市交流推進協議会補助 ◎訪問団受入 (7/8~15 成人3名、高校生5名) ◎文化交流事業(瀬棚商業高校) ◎ジョシ神家アソシエイト(3/14)			・瀬棚商業高等学校の閉校に伴い、新たな取り組みを検討している。 ・全町的な取り組みを進めながら、広く姉妹都市交流の意識の浸透を図る。	・自己評価どおりで良い ・新たな取り組みを検討しながら継続して進められたい	A	A